OWNER'S MANUAL

HOME THEATER SYSEM

FS-321Ⅱ
(FreeStyle® Ⅱ)

取扱説明書

この度はFS-321Ⅱをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。また、必要なときにすぐご覧になれるように大切に保管しておくことをおすすめいたします。

※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示について

 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は行為を促す内容を告げるものです。（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

アンプ部について

	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源ケーブルが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
警告		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		通風孔のある機器のみ ●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。 テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
		●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。
		●電源ケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルが本機の下敷にならないようにしてください。ケーブルに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合は火災・感電の原因となります。 ●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。

警告	分解禁止	●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 ●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。
		●電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して、火災・感電の原因となります。

注意		
		●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源ケーブル、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードやケーブルの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
		●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。 **電池を使用する機器のみ** ●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
		●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。
		●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
		●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
		●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
		●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
		●シンナー、ベンジン、アルコール類などの揮発性の薬品やその他化学物質、クレンザーなどで製品をふかないでください。破損、変質、変色、塗料のはがれや表面に傷を付ける原因となります。またスプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

スピーカー部について

警告		
		●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
		●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
		●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
		●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

注意		
		●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
		●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
		●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
		●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。
		●ポートの中に手や体の一部を入れないでください。けがの原因となります。
		●シンナー、ベンジン、アルコール類などの揮発性の薬品やその他化学物質、クレンザーなどで製品をふかないでください。破損、変質、変色、塗料のはがれや表面に傷を付ける原因となります。またスプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

Contents

ご使用の前に

3本の結線、2本のフロントスピーカー、1台のメディアセンター。このシンプルなシステムでありながら、音楽CDやDVDビデオをはじめすべてのソースを5.1chサラウンドで楽しめるボーズ社の完結型ホームシアターシステム3・2・1システム。FS-321Ⅱは、その3・2・1システムの持ち味をすでにDVDプレーヤーやHDDレコーダーなどをお持ちの方にもお楽しみいただけるように、セットの内容を限界までスリム化したホームシアターシステムです。今お使いになっているDVDプレーヤーやテレビをつないで、映画や音楽、テレビの音声などを5.1chサラウンド再生します。

FS-321Ⅱの特長

■前方2本のスピーカーだけで本格的なサラウンドを実現

左右それぞれの耳に到達する音の時間差、音量差、周波数の変化により、音の方向性を人間は判断します。この聴覚心理を応用し、前方に設置した2本のスピーカーだけで正確に音の方向性を再現する、ボーズの独自技術「TrueSpace®」を搭載。後ろにスピーカーを置けない環境でも、リアルで広がりのある本格的なホームシアターの醍醐味をお楽しみいただけます。

■DVDプレーヤーやテレビ等と組み合わせるだけで、本格的なサラウンドシステムの構築が可能

「FS-321Ⅱ」は、DSPやアンプなどをすべてアクースティマスモジュールに内蔵。外部機器との接続はコンパクトなインターフェースモジュールにつなぐだけなので、DVDプレーヤーやTVなどを接続すれば本格的なサラウンドシステムに早変わり。映画や音楽、スポーツ放送、録画した番組などあらゆるソースを自然で臨場感豊かに再生します。また、多機能なリモコンが付属しており、接続した外部機器の基本的な操作もでき大変便利です。

■クリアで力強い重低音をバランスよく再生するアクースティマスモジュール

5.1ch分のアンプを内蔵したアクースティマスモジュールは、すべての低音成分を合成した上で音響エネルギーに変換することで低音同士の干渉を解消。また、ボーズの独自技術アクースティマス方式の採用によりウーファーを効率よく駆動させ、ポートのフィルター効果で高調波歪の発生も抑えて生み出される力強くクリアな重低音が、映画館に限りなく近い迫力の臨場感を提供します。

♪：**FS-321Ⅱシステムが扱えるデジタル音声信号はAAC、LPCMとAC-3ドルビーデジタルのビットストリーム信号です。DTS音声のデジタルビットストリーム信号は再生できません。**
市販のDTS音声対応ソフトには必ずAC-3ドルビーデジタルまたはLPCMによる録音もあわせてされています。このようなソースの場合はお使いのDVDプレーヤー等の取扱説明書を参照して、デジタル出力をAC-3ドルビーデジタルやLPCMに切り替えてください。また、DTS録音のみのソフトの場合は、FS-321ⅡのリモコンのAUXボタンを押して、アナログ音声信号を選んでください（この場合DVDプレーヤー等のアナログ音声出力をテレビのアナログ音声入力に接続しておく必要があります）。
AC-3ドルビーデジタル、LPCM、アナログ音声信号のいずれを選んでもFS-321Ⅱに内蔵されたボーズ独自の技術により5.1chのサラウンド再生をお楽しみいただけます。

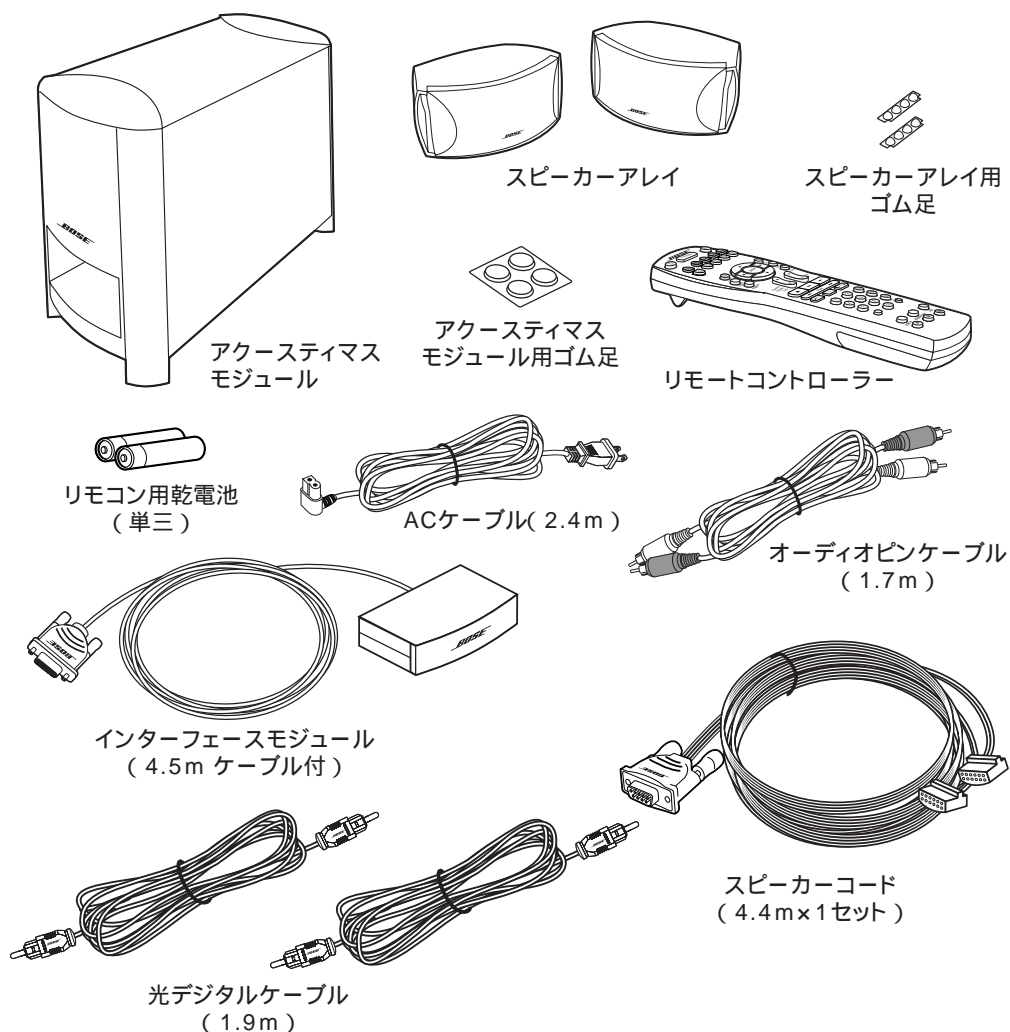
内容物の確認

箱や梱包材は、後日修理やメンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

警告：窒息する危険がないように、製品を包んでいたビニール袋は子供の手の届かない場所に保管してください。

図1

内容物

♪注意：製品のゴム足について

- **ゴム足は素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性があります。事前にご確認のうえご使用ください。**
- **付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。**

設置方法

下記のガイドラインに従ってスピーカーアレイとインターフェースモジュールの置き場所を選んでください。

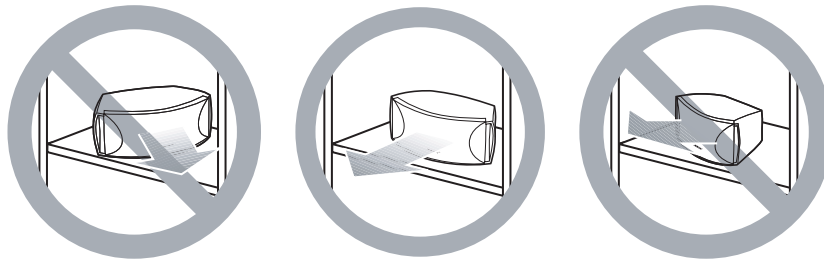
♪：**ここに示した設置のガイドラインは製品の性能を最大限に生かすためのものですが、これを参考にご自分の好みやお部屋の状況に応じてより良い設置場所を探していただいてもかまいません。**

このシステムで電源コンセントに接続するのはアクースティマスモジュールだけです。2本のスピーカーアレイとインターフェースモジュールは電源コンセントに接続しません。電源コンセントとの関係を考える場合はアクースティマスモジュールから電源コンセントの距離を考えるだけですみます。

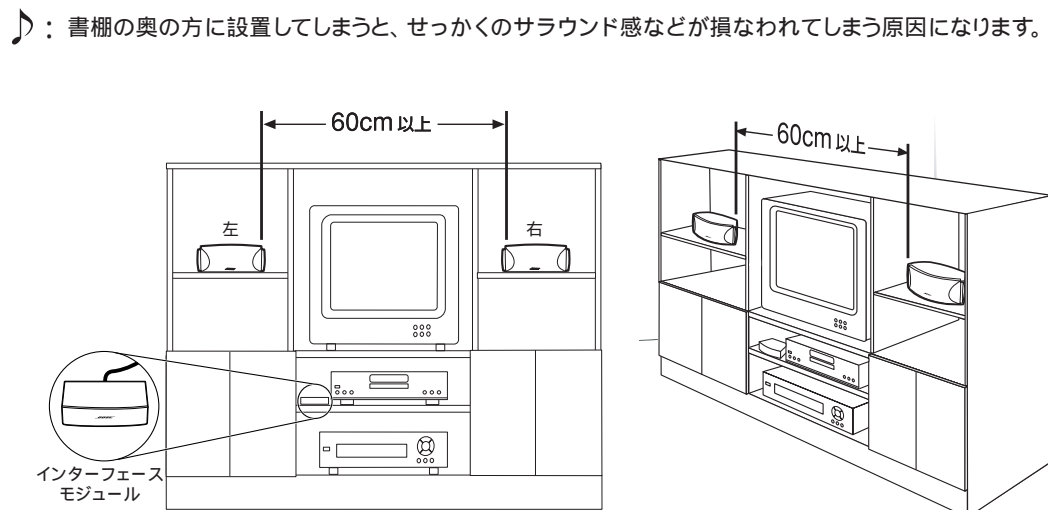
スピーカーアレイの設置

よい環境にスピーカーを設置できれば製品の性能を最大限に生かした、音響特性やサラウンド感を堪能できます。

・スピーカーアレイは必ず正面を向けて設置してください。内側に向けたり、外側に向けたりしない方がより良い結果が得られます。

図2
スピーカーアレイの設置

・書棚やテレビラックなどの上に置く場合は、必ずスピーカーアレイを棚の前面部に設置してください。

♪：**書棚の奥の方に設置してしまうと、せっかくのサラウンド感などが損なわれてしまう原因になります。**

図3
インターフェースモジュールの接続

⚠ 警告：**スピーカーを設置する部分がガラスや磨き込んだ板、つるつる滑るような材質のものの上などは、スピーカーが音を出したときの振動などで滑って落下する恐れがあります。このような場所に設置する場合は必ず付属のゴム足を使用して、落下しないように安全に設置してください。**

・テレビのブラウン管の上に置く場合や、テレビスクリーンの左右に設置する場合は等距離になるように設置します。

♪：**スピーカーアレイはブラウン管式のテレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型になっています。**

・スピーカーアレイ同士の距離はすくなくとも60cm 離してください。ただし、映像と音声とがバラバラになり過ぎないように、画面の縁からは1m 以内に設置するようにしてください。しかし、この距離はあくまでも目安ですので、部屋の条件や個人的好みによって一番最適なところをお探しいただけます。

・左右のスピーカーアレイは、同じ高さになるように設置してください。
このスピーカーアレイは、底面が必ず下になるように設置するように設計されています。また、その向きで使用できるようなテーブルスタンド、フロアースタンドも別売りでご用意しています。

設置場所が決定したらスピーカーアレイ用ゴム足をスピーカーアレイの底面の4スミに取り付けてください。

図4

スピーカーアレイを設置するときの向き

♪：**上下を逆にしたり、縦にして使用すると、本製品のサラウンド効果が著しく低下します。必ず水平に上下左右を正しく設置するようにしてください。**

♪**注意：FS-321 IIは、その独自のサラウンド再生方法により音の左右を間違えると全く効果が得られなくなります。くれぐれも右に設置されたスピーカーアレイには右用のスピーカーコードを、左に設置されたスピーカーアレイには左用のスピーカーコードを接続してください。**

アクースティマスモジュールの設置

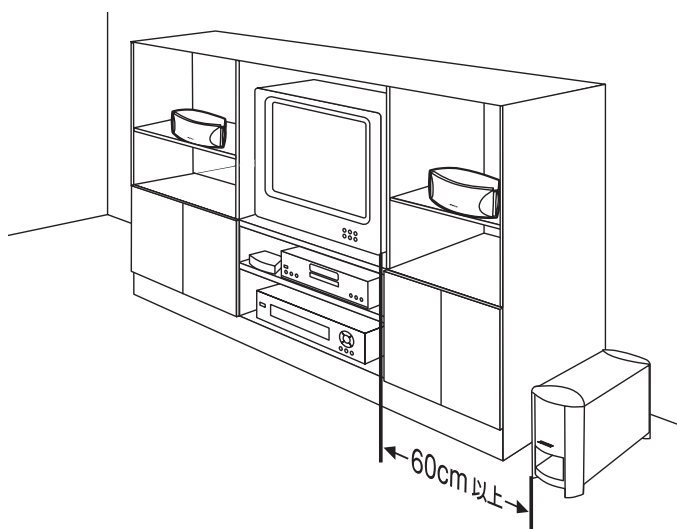
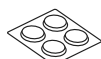
次のことを確認して設置してください。

・ACコンセントまで付属のケーブルが届く距離にあること。

・設置しようとする場所が、テレビやスピーカーが設置してあるのと同じ側であること。

・アクースティマスモジュールは非防磁のスピーカーなので、ブラウン管を使用しているテレビの場合は、画面に影響を与えないように少なくとも60cmは離れていること(機種とブラウン管のサイズによって異なります)。

図5

アクースティマスモジュールとテレビの間は60cm以上空けます

⚠ **注意：アクースティマスモジュールは防磁処理がされていません。そのため、ビデオテープ、カセットテープ、その他磁気による記録媒体を直接あるいは近接した場所に保管すると内容が消えたり、再生できなくなる場合があります。**

設置場所が決定したらアクースティマスモジュール用ゴム足をアクースティマスモジュールの4スミの足の中央部分のくぼみに取り付けてください。

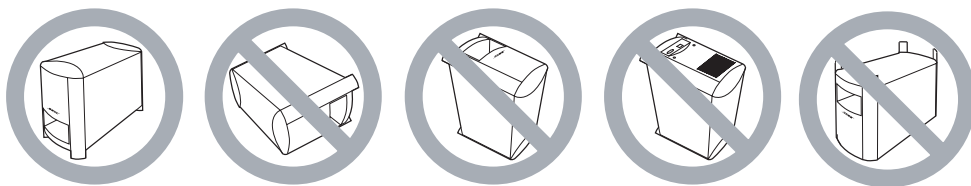
ポートと換気開口部をふさがないようにしてください。

・アクースティマスモジュールは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置してもかまいません。その際、家具やカーテンがアクースティマスモジュールの換気開口部をふさがないように十分気をつけてください。

・アクースティマスモジュールは、ポートがふさがることを防ぎ、効率良く低音エネルギーが得られるように、ポートを部屋に向けるか、または壁に沿うように置きます。

・アクースティマスモジュールは底面が下になるように設置します。

図6

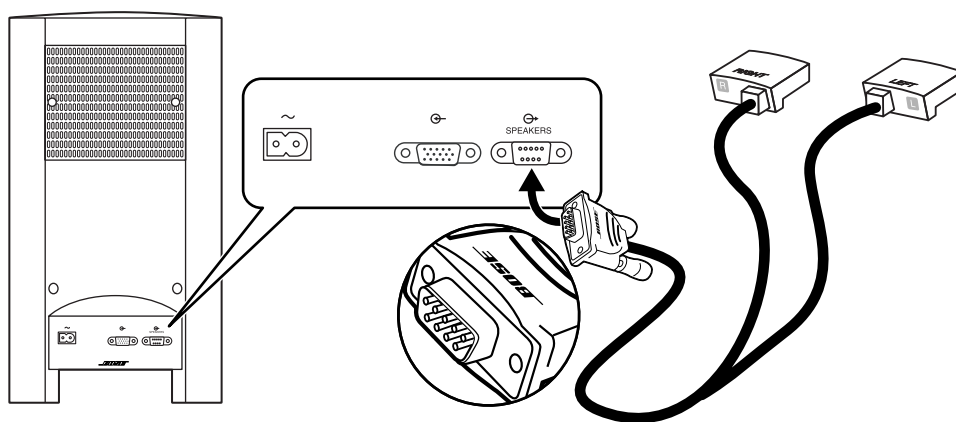
アクースティマスモジュールを設置するときの向き

⚠ **警告：・横倒し、天地逆には設置してはいけません。**
・アクースティマスモジュールの背面のスリット部分からの空気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してアクースティマスモジュール背面スリットをふさがないようにしてください。火災の原因になります。

接続について

接続の手順

1. アクースティマスモジュール背面のSPEAKERS ⊖▸ と書かれているところにスピーカーコードの2本のネジが付いているプラグを差し込みます。プラグの両脇についているネジをしっかり締めてください。

♪：**プラグを固定するときにこのネジを締めると、接触不良などのトラブルを防ぐ事ができます。このプラグはしっかり差し込んでも、通常若干の隙間が生じます。また、ネジを締める時にドライバー（ネジ回し）を使うと破損する場合がありますので、必ず手で締めるようにしてください。このプラグは手で締める力で十分固定できるようになっています。ネジをゆるめる場合はドライバー（ネジ回し）を使用してもかまいません。**

図7
スピーカーコードの接続

2. スピーカーコードの反対側は、2個のスピーカーの間隔に応じて、引き裂いてください。

3. LEFTと書かれているコネクターは、視聴する場所から向かって左側に置くスピーカーに接続します。同様にRIGHTと書かれているコネクターは、右側に置くスピーカーに接続します。

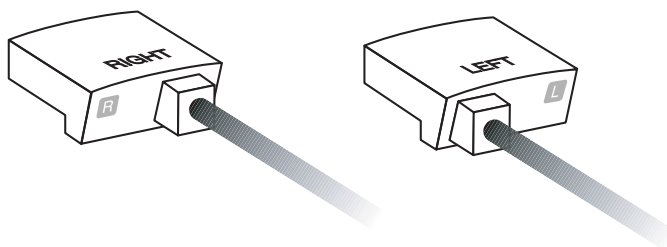
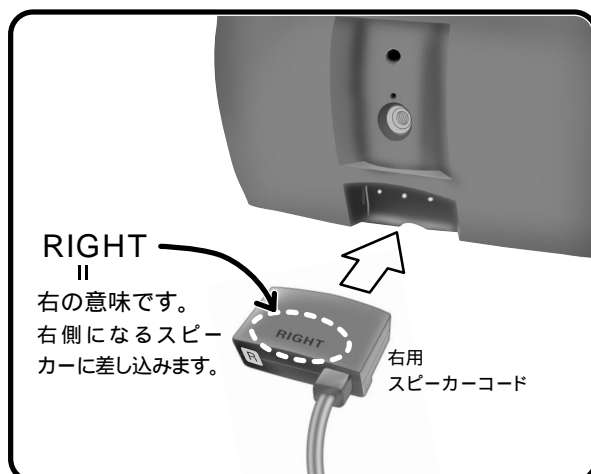
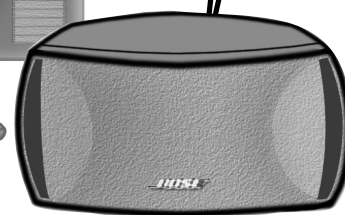
図8
スピーカーの左右に注意

♪**注意：FS-321IIは、その独自のサラウンド再生方法により音の左右を間違えると全く効果が得られなくなります。くれぐれも右に設置されたスピーカーアレイには右用のスピーカーコードを、左に設置されたスピーカーアレイには左用のスピーカーコードを接続してください。**

図9
スピーカーの接続

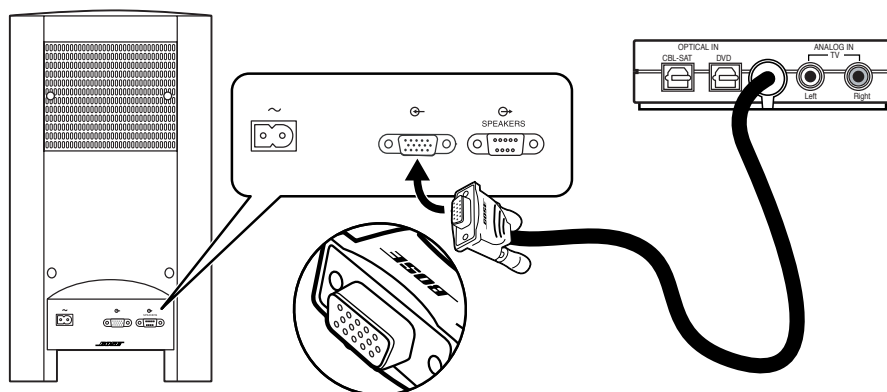
このシステムのスピーカーには左右の区別はありませんが、
スピーカーコードには左、右があります。

**テレビに向かって
左側に置いたスピーカー**

**テレビに向かって
右側に置いたスピーカー**

※テレビに向かって **左側にあるスピーカーに 左用のスピーカーコード** を、
右側にあるスピーカーに 右用のスピーカーコード をつないでください。
この左右を間違えると、サラウンドにならないばかりでなく、ステレオで聴くときにも、音像や音の定位などの本来の性能が全く発揮されません。

4. アクースティマスモジュール背面の ⊖ のマークのついている方にインターフェースモジュールの2本のネジが付いているプラグを差し込みます。

♪：**プラグを固定するときにこのネジを締めると、接触不良などのトラブルを防ぐ事ができます。このプラグはしっかり差し込んでも、通常若干の隙間が生じます。また、ネジを締める時にドライバー（ネジ回し）を使うと破損する場合がありますので、必ず手で締めるようにしてください。このプラグは手で締める力で十分固定できるようになっています。ネジをゆるめる場合はドライバー（ネジ回し）を使用してもかまいません。**

図10

インターフェースモジュールの接続

テレビとの接続例 1 （基本編：テレビ、DVD/DVR）

外部の機器の表記について

本書における外部の機器の表記については、本頁以降、説明の便宜上以下のとおり省略して名称を使用しています。

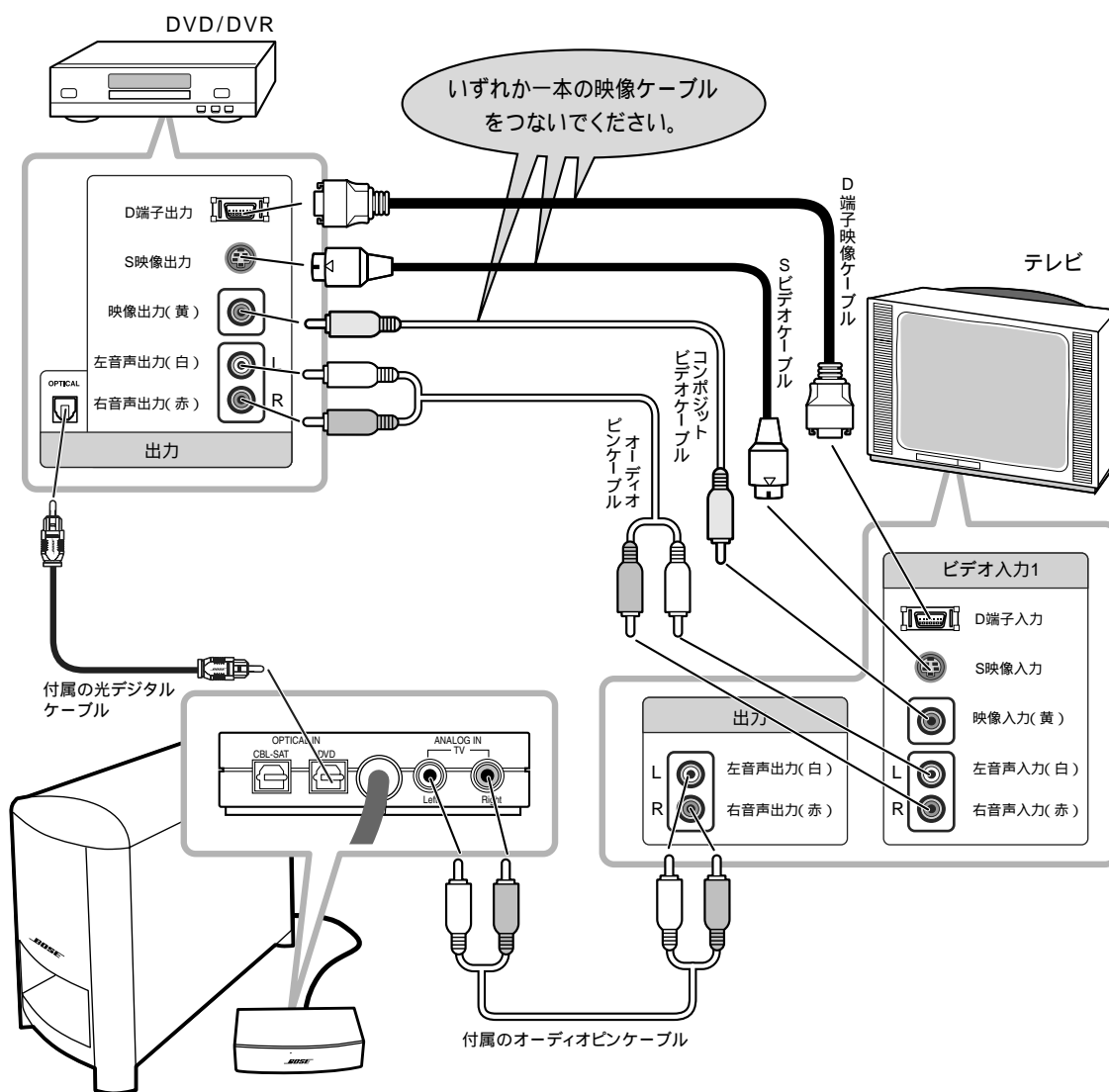
DVD：DVDプレーヤー
C D ：CDプレーヤー
DVR（デジタルビデオレコーダー）：HDDレコーダー、DVDレコーダーなど
CBL：ケーブルテレビホームターミナル
SAT：デジタルチューナー、衛星チューナーなど
VCR：ビデオカセットデッキ

インターフェースモジュールに接続するテレビのアナログ音声信号について

通常テレビの音声出力信号はボリュームに連動していません。もし、テレビの音声出力信号を固定と可変(連動)のどちらかに選択できる場合は固定を選択します。

テレビからの音声について

テレビの音声をFS-321Ⅱ楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビのボリュームを最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

注意： 全ての結線が終わるまで接続している機器の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

・接続するときのケーブルは必要に応じて市販のものをご用意ください。
・図のテレビ、DVD/DVRの端子の部分はあくまでも一例です。お手持ちの機器により異なる場合があります。

最後にACコンセントに接続する

はじめにアクースティマスモジュール背面のACケーブルジャックに付属のACケーブルを奥までしっかり差し込みます。そして、壁のコンセントにACプラグを差し込んでください。

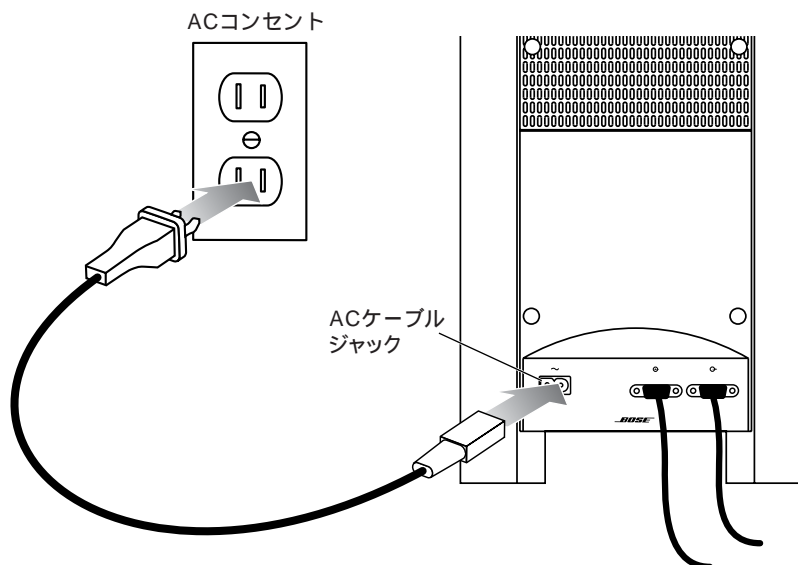
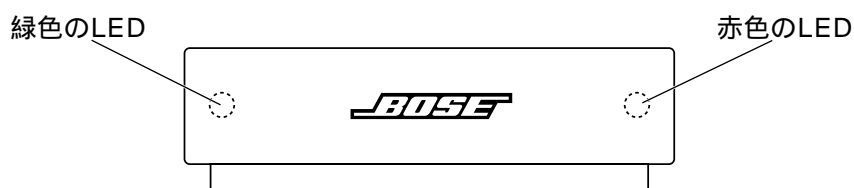
図11
最後にACケーブルをコンセントに接続

⚠ **注意：雷によるサージノイズが100V電灯線に入りシステムの電源内部に伝わると、スタンバイ電源や電子部品が故障したり、破損する場合があります。雷ガード、雷サージサプレッサーなどの対策を取ることをお勧めします。雷サージサプレッサー等の機器については販売店にご相談ください。**

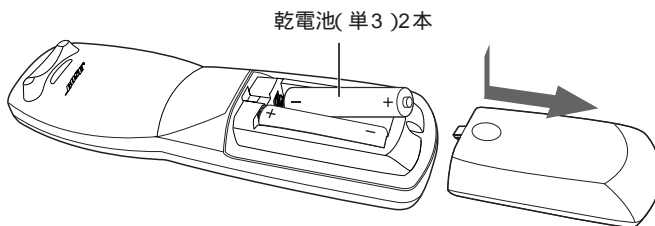
図12
スタンバイ/パワーインジケーター

コンセントにプラグを接続して通電されると、本機がスタンバイ状態であることを示す赤いLEDが点灯します。システムの電源をOnすると、緑色のLEDが点灯します。また、緑色のLEDは、リモコンから信号を受信するたびに点滅します。

リモコンの準備

リモコンの電池の入れかた

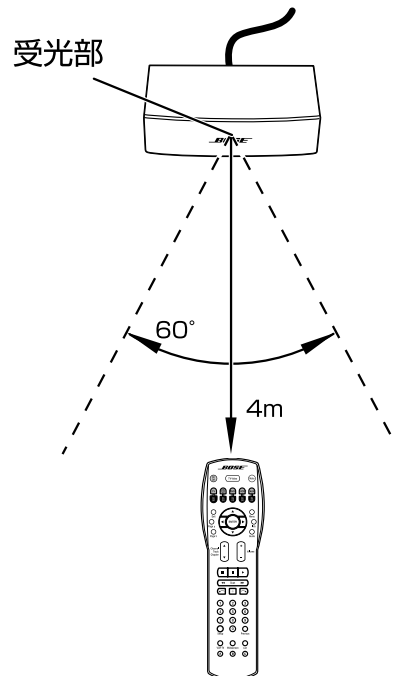
1. リモコンを裏返しにしてバッテリーカバーを下に押し込みながら引き出すように電池ボックスを開けます。
2. ボックス内の表示に合わせて乾電池（単三型2本）を入れてください。
3. スライドさせるようにしてバッテリーカバーを閉めてください。

⚠ **注意：付属の乾電池は動作チェック用として同梱してあります。新品の乾電池よりは使用期間が短くなりますので、およそ1年後を目安に、新しい乾電池と交換してください。**

図13
リモコンの電池の入れ方

⚠ 電池についての注意

- **乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。**
- **新しい乾電池と古い乾電池、または、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。**
- **乾電池は絶対に充電しないでください。**
- **長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。**
- **液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。**

リモコンの動作範囲について

図14
リモコンの動作範囲

⚠ 使用上の注意

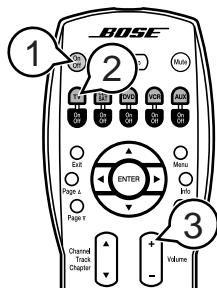
- **インターフェースモジュールの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。**
- **本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますので、ご注意ください。**
- **リモコンとインターフェースモジュールの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。**

電池の交換時期について

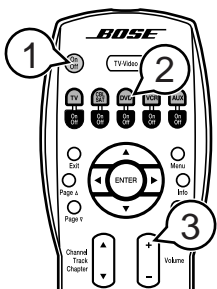
リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を2本とも新しい乾電池に交換してください。新品のアルカリ電池を使用すれば通常約2年程ご使用いただけます。

Operation

基本操作

テレビを見るとき

●テレビの操作はその機器付属のリモコンで行います。

1. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
2. **TV・ソースボタン**を押します。
3. 音量を調整します。

DVD/DVRを見るとき

●DVD/DVRの操作はその機器付属のリモコンで行います。

●DVD/DVRの光デジタル音声出力端子とインターフェースモジュールのOPTICAL IN DVD端子を光デジタルケーブルで接続してあることを確認します。

1. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
2. **DVD・ソースボタン**を押します。
3. 音量を調整します。

外部の機器を付属のリモコンで操作するには

TV・Videoボタン
TVソースボタン
On/Offボタン
数字ボタン
Setupボタン

FS-321Ⅱシステム付属のリモコンに巻末のメーカーコード番号を設定することで、外部の機器を操作することができます。

例:テレビを操作できるように設定する場合

1. 巻末の設定コード表の製品カテゴリーの「TV」からテレビのメーカーコード番号を探します。同じメーカーのコード番号が複数ある場合は初めのものから順番に試していきます。
   ※他の機器の設定をする場合は、設定する機器それぞれのカテゴリーからメーカーコード番号を探してください。
2. 5個のソースボタンが点灯するまで、**Setupボタン**を長押しします。
3. **TV・ソースボタン**を押します。TV・ソースボタン以外のソースボタンが消灯します。
   ※DVD/DVRの場合は、DVD・ソースボタンを押します。
4. **1**.で調べた5桁のメーカーコード番号をリモコンの**数字ボタン**を使って入力します。入力し終わると、**TV・ソースボタン**(他の機器の場合はそれぞれのソースボタン)が素早く2回点滅して消灯します。

5. リモコンをテレビのリモコン信号受光部に向けて、TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源がOn/Offできるか、**TV・Videoボタン**を押してテレビの入力が切り替えできるか、**Channelボタン**や**数字ボタン**を押してテレビのチャンネルが切り替えられるか確認してください。このとき、これらの操作ができない場合は同じメーカーの次のコード番号を選んで、手順「2」からやり直してください。

※チャンネルの数字が2桁以上の場合は、数字ボタンで入力できないことがあります。

♪注意： 設定を行っている間にリモコンの設定に関係ないボタンを押すか、無効のコード番号を入力すると、5個のソースボタンが素早く3回点滅して、入力モードが終了します。このときは、手順「2」からやり直してください。

♪： 現在リモコンでどの機器が操作できるか確認するには、リモコンのEnterボタンまたはMuteボタンを押します。操作できる機器のソースボタンが点滅します。

リモコンの使い方（付属のリモコンで外部機器の操作）

♪注意： リモコンの送信部を操作したい外部の機器のリモコン信号受光部へ確実に向けて操作してください。また、リモコンの送信部と操作したい外部の機器のリモコン信号受光部の間に障害物がないことを確認してください。

テレビを見るとき

1. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
2. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
3. **TV・ソースボタン**を押してテレビの操作をできるようにします。
4. テレビのチャンネルを切り替えて、見たい番組に合わせます(20ページ参照)。
5. 音量を調整します。

DVD/DVRを見るとき

●DVD/DVRの光デジタル音声出力端子とインターフェースモジュールのOPTICAL IN DVD端子を光デジタルケーブルで接続してあることを確認します。

リモコンの設定時に、DVD・ソースボタンにDVD/DVRを設定してください。

1. DVD・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してDVD/DVRの電源を入れます。
2. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
3. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
4. **TV・Videoボタン**を押して、テレビの入力をDVD/DVRを接続した入力に切り替えます。
5. **DVD・ソースボタン**を押して、DVD/DVRの操作をできるようにします。
6. DVD/DVRを操作して見たい番組を再生します(20ページ参照)。
7. 音量を調整します。

FS-321Ⅱシステムの使い方

FS-321Ⅱの電源をOn/Offします。

♪：**5個のソースボタン、およびその下のOn/Offボタンを押してもFS-321Ⅱ システムの電源をOn/Offすることはできません。**

ミュート（一時的消音）のOn/Offを行います。

リモコンで外部の機器の操作を行う前に

リモコンで外部の機器を操作できるようにするには、必ず、リモコンの設定(16、24、28、ページ参照)を行ってください。設定すると、FS-321Ⅱ のリモコンで、テレビのチャンネルを切り替えたり、DVDプレーヤーを操作したりすることができるようになります。

ソースと入力の選択

テレビの外部入力を切り替えるときに押します[※1]。

TV：音源としてインターフェースモジュールのANALOG IN TV（アナログ入力端子）に接続してある機器（通常はテレビ）を選択します。リモコンの設定（16、24、28ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのテレビのメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すとFS-321Ⅱのリモコンでテレビのチャンネル切替などの操作ができます[※1]。

On/Off：テレビの電源をOn/Offします[※1]。

♪ **注意：このリモコンでコントロールできないテレビもあります。**

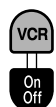
CBL-SAT：音源としてインターフェースモジュールのOPTICAL IN CBL-SAT（光入力端子）に接続してある機器（通常はケーブルテレビホームターミナルやデジタルチューナーなど）を選択します。リモコンの設定（16、24、28ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのデジタルチューナーなどのメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すとFS-321Ⅱのリモコンでそれらの機器の操作ができます[※1]。

On/Off：上記の機器の電源をOn/Offします[※1]。

♪ **注意：このリモコンでコントロールできないケーブルテレビホームターミナルやデジタルチューナーなどもあります。**

DVD：音源としてインターフェースモジュールのOPTICAL IN DVD（光入力端子）に接続してある機器（通常はDVDプレーヤーやHDD/DVDレコーダーなど）を選択します。リモコンの設定（16、24、28ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのDVDプレーヤーなどのメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すとFS-321Ⅱのリモコンでそれらの機器の操作ができます[※1]。

On/Off：上記の機器の電源をOn/Offします[※1]。

♪ **注意：このリモコンでコントロールできないDVDプレーヤーやHDD/DVDレコーダーなどもあります。**

VCR：音源としてお使いのテレビの入力端子に接続してある外部機器（通常はビデオデッキ）を選択します。ビデオデッキからの映像はFS-321Ⅱのリモコンの**TV-Videoボタン**でテレビの外部入力を切り替えて選択してください[※1]。リモコンの設定（16、24、28ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのビデオデッキのメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すとFS-321Ⅱのリモコンでビデオデッキの操作ができます[※1]。

On/Off：上記の機器の電源をOn/Offします[※1]。

♪ **注意：このリモコンでコントロールできないビデオデッキもあります。**

AUX：音源としてお使いのテレビの入力端子に接続してある外部機器を選択します。この機器からの映像はFS-321ⅡのリモコンのTV-Video**ボタン**でテレビの外部入力を切り替えて選択してください※1。リモコンの設定（16、24、28ページ参照）でこのボタンを使ってお使いの機器のメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すとFS-321Ⅱのリモコンでその機器の操作ができます※1。

On/Off：上記の機器の電源をOn/Offします※1。

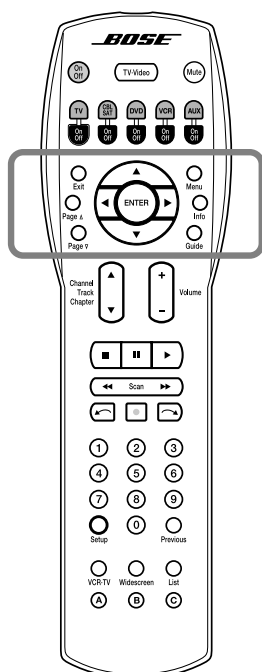
♪ **注意：このリモコンでコントロールできない機器もあります。**

※1 FS-321Ⅱのリモコンでテレビやビデオデッキなどの外部機器を操作するには、リモコンにそれらの機器のコードを登録する必要があります（16、24、28ページ参照）。

メニューおよびナビゲーション

♪：**このページで説明されているボタンは一度に1つの機器しか操作できません。例えば、リモコンでTVが選択されているときにDVDプレーヤーやデジタルチューナーを操作することはできません。**

♪：**このページで説明されているボタンの機能はお使いの機器の種類・メーカーによって以下の説明と異なる機能として働く場合や、ボタンの機能自体が有効にならない場合があります。**

Exit

現在選択されているソースのメニュー画面や電子番組表などを画面から消すときに使用します※2。

Page ∆

電子番組表が表示されている時に次のページを表示します※2。CBL-SATモードでのみ有効です。

Page ∇

電子番組表が表示されている時に前のページを表示します※2。CBL-SATモードでのみ有効です。

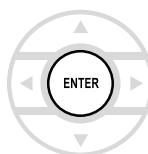
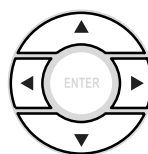
Menu

現在選択されているソースのメニュー画面を表示します※2。

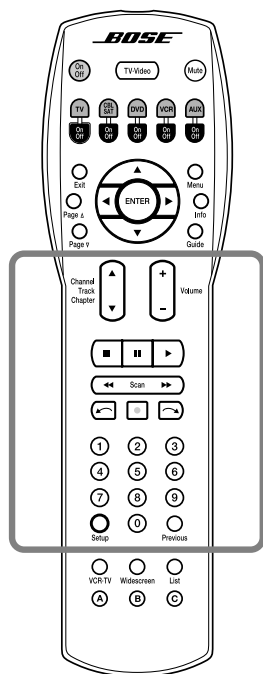
Info

電子番組表などにおける詳細項目を表示します※2。

Guide

電子番組表を表示します※2。CBL-SATモードでのみ有効です。

他のボタンと一緒に使用して、各種設定や選択などを確定させるときに使用したり、選択項目にさらに詳細設定（サブメニュー）がある場合はサブメニューを表示します※2。

表示画面において上下左右の項目へ移動するときに使用します※2。

※2 お使いの外部機器にそれらの機能がある場合にのみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があってもFS-321Ⅱのリモコンで操作できない場合もあります。

再生機能など

♪注意： **このページと次のページで説明されているボタンの多くは一度に一つの機器しか操作できません。例えばリモコンでCBL-SATが選択されている時はデジタルチューナーのチャンネル切替などは可能ですが、DVDの再生やチャプターの送り・戻しなどは出来ません。この場合は必ず一度DVDソースボタンを押してから操作してください。**

♪注意： **このページと次のページで説明されているボタンの機能は、お使いの機器の種類・メーカーによっては以下の説明と異なる機能として働く場合や、ボタンの機能自体が有効にならない場合があります。**

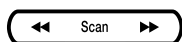
テレビやデジタルチューナーなどのチャンネルを選択したり、CDのトラックやDVDのチャプターを進めたり戻したりするときに使用します※。

FS-321Ⅱシステムのスピーカーからの音量を調整するときに使用します。
＋を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときはこのボタンで解除します。
－を押すと音量が下がります。ミュートが働いているときはミュートが働いたまましステムの音量を下げます。

♪注意： **Volumeボタン及びMuteボタン（18ページ）はどのソースが選択されていても常にFS-321Ⅱシステムのスピーカーからの音量を調整します。これらのボタンでテレビや外部機器のスピーカーの音量を調整することは出来ません。**

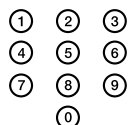
DVD、CD、VCR、DVRの再生を停止します。

このボタンを押すとDVD、CD、VCR、DVRの再生をポーズ（一時停止）します。

このボタンを押すとDVD、CD、VCR、DVRの再生を始めます。

DVDのチャプターやCDのトラック、VCR、DVRを早戻し、早送りするときに使用します。

DVRなどでインスタントリプレイを行うとき使用します※。

VCRやDVRなどで録画を開始します。録画機能の付いている機器をFS-321Ⅱのリモコンのソースボタン（DVD、VCRなど）で選んでから確実に押してください。

DVRなどでクイックスキップまたは、現在放送中の番組に戻るときに使用します※。

リモコン設定時（16、24、28ページ参照）メーカーのコード番号入力に使用します。DVDのチャプターやCDのトラックを直接呼び出したり、テレビのチャンネルを選択したり、項目番号の入力などにも使用できます※。

Setup

リモコン設定時（16、24、28ページ参照）に使用します。

Previous

直前に見ていたチャンネルを呼び出せます※。

※お使いの外部機器にそれらの機能がある場合にのみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があってもFS-321Ⅱのリモコンで操作できない場合もあります。

VCR·TV

VCRまたはVCR複合機器(ビデオ付テレビなど)使用時に映像の供給元をテレビとVCRの映像間を切り替えるときに使用します※。

Widescreen

画面サイズをワイドスクリーンと標準の間で切り替えるときに使用します※。

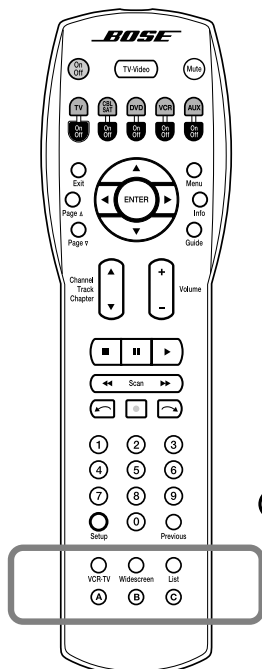
List

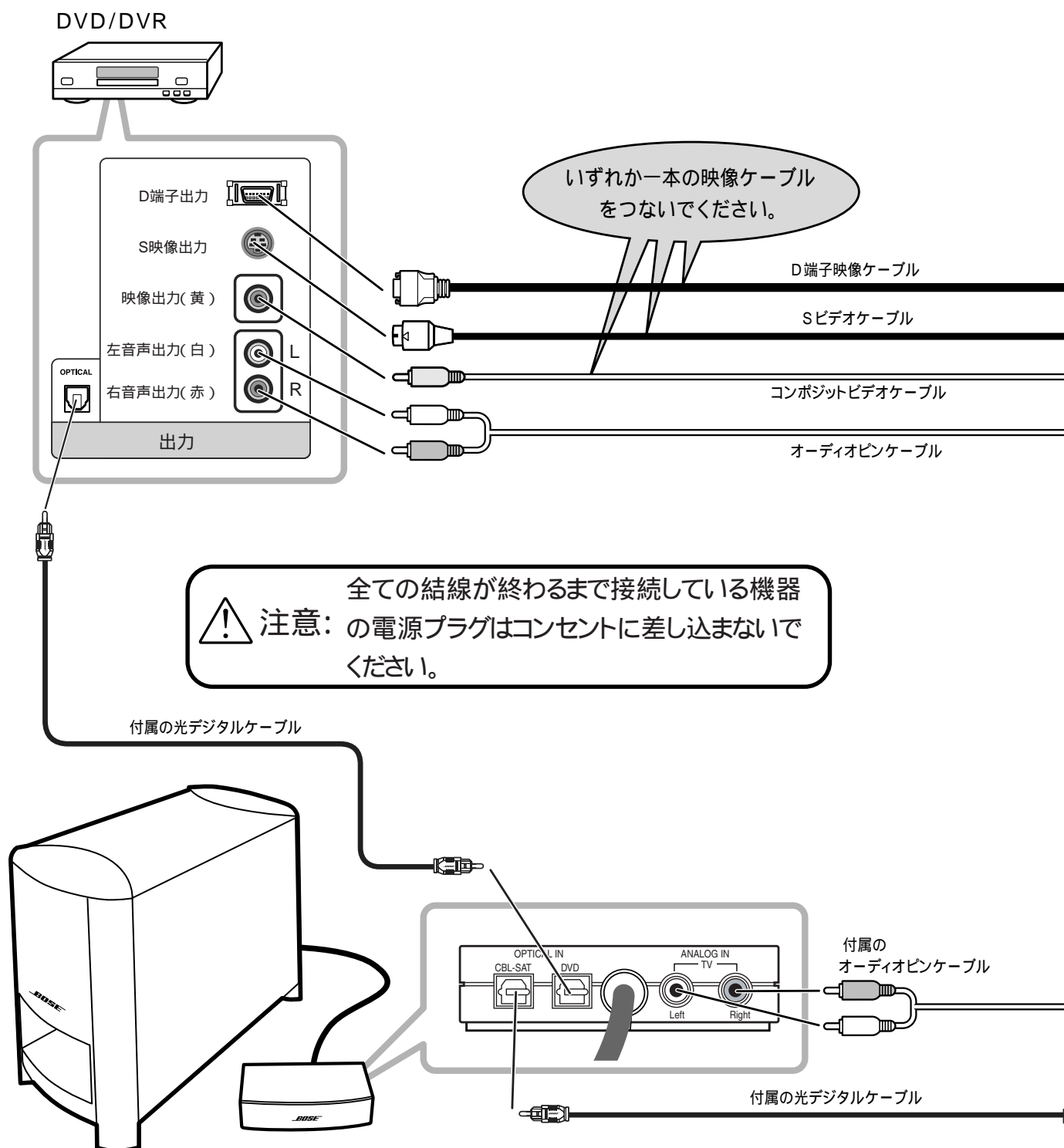
DVRなどで録画済番組のリストを表示します※。デジタルチューナーなどで番組情報を表示します※。

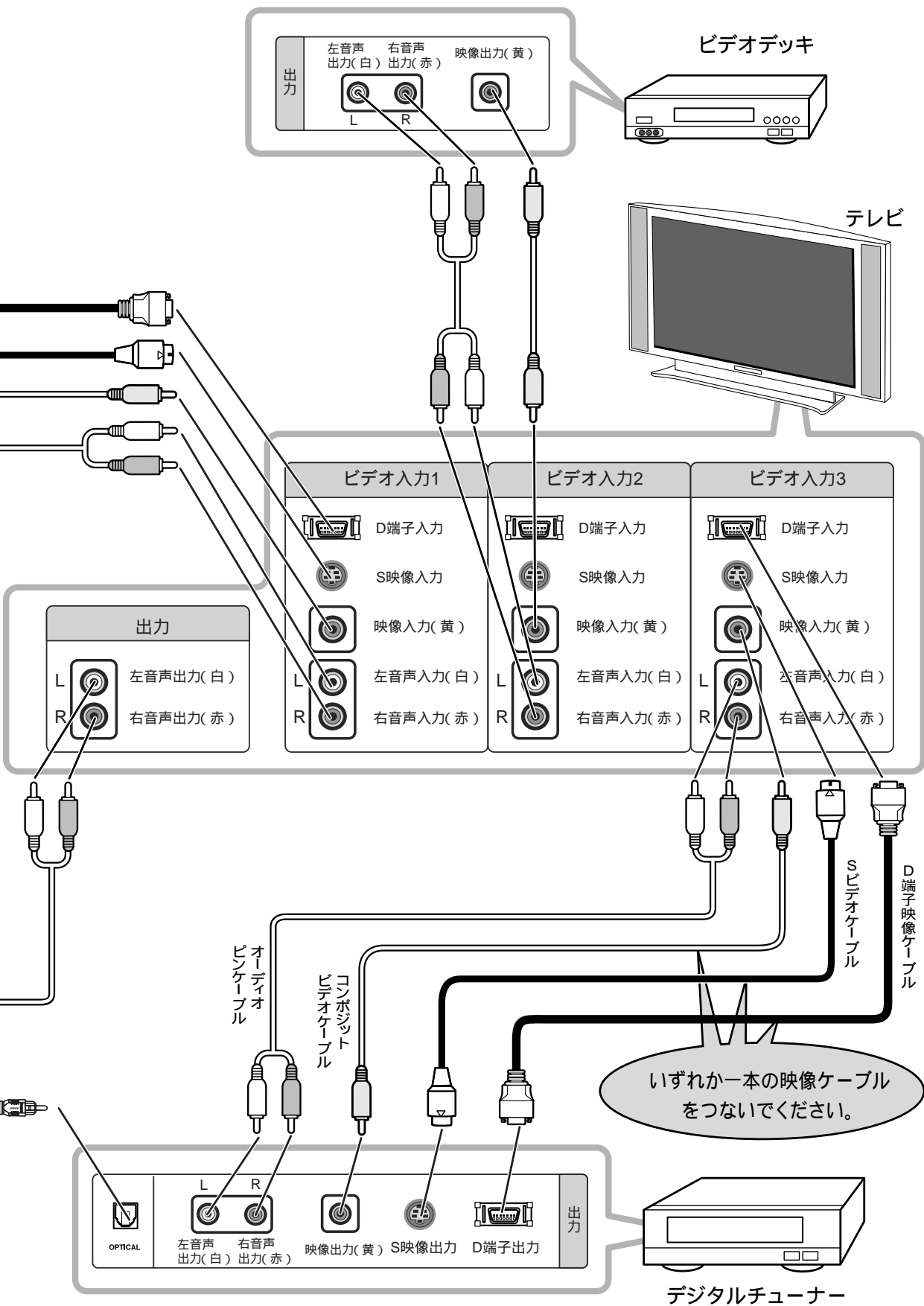
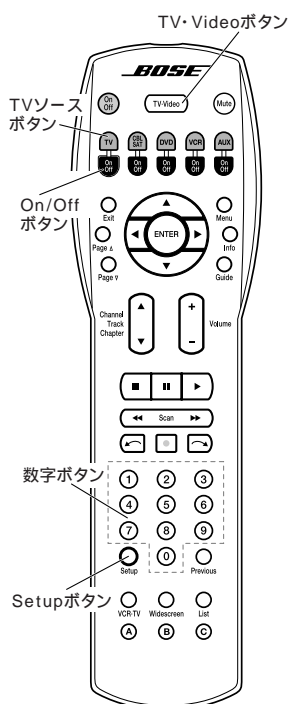
B 長押し

AAC音声多重切替ボタン
地上デジタル/BSデジタル放送などのAAC音声多重信号が入力されたときに、1秒以上長押しする毎に主音声のみ再生→副音声のみ再生→主/副両方再生の切替が可能です※。

A B C

ケーブルテレビ用オプションボタン
これらのボタンはケーブルテレビ特有の機能を操作するときに使用します※。

※お使いの外部機器にそれらの機能がある場合にのみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があってもFS-321Ⅱのリモコンで操作できない場合もあります。

テレビとの接続例 2 （応用編：テレビ、DVD/DVR、ビデオデッキ、デジタルチューナー）

・接続するときのケーブルは必要に応じて市販のものをご用意ください。
・図のテレビ、DVD/DVR、ビデオデッキ、デジタルチューナーの端子の部分は
あくまでも一例です。お手持ちの機器により異なる場合があります。

ビデオデッキ
出力
左音声
出力（白）
右音声
出力（赤）
映像出力（黄）
L
R
テレビ
ビデオ入力1
ビデオ入力2
ビデオ入力3
D端子入力
S映像入力
映像入力（黄）
左音声入力（白）
右音声入力（赤）
出力
左音声出力（白）
右音声出力（赤）
オーディオ
ピンケーブル
コンポジット
ビデオケーブル
Sビデオケーブル
D端子映像ケーブル
いずれか一本の映像ケーブル
をつないでください。
OPTICAL
左音声
出力（白）
右音声
出力（赤）
映像出力（黄）
S映像出力
D端子出力
デジタルチューナー

外部の機器（接続例 2 ）を付属のリモコンで操作するには

FS-321 II システム付属のリモコンに巻末のメーカーコード番号を設定することで、外部の機器を操作することができます。

例：テレビを操作できるように設定する場合

1. 巻末の設定コード表の製品カテゴリーの「TV」からテレビのメーカーコード番号を探します。同じメーカーのコード番号が複数ある場合は初めのものから順番に試していきます。
   ※他の機器の設定をする場合は、設定する機器それぞれのカテゴリーからメーカーコード番号を探してください。
2. 5個のソースボタンが点灯するまで、**Setupボタン**を長押しします。
3. **TV・ソースボタン**を押します。TV・ソースボタン以外のソースボタンが消灯します。
   ※DVD/DVRの場合はDVD・ソースボタン、VCRの場合はVCR・ソースボタン、デジタルチューナーの場合はCBL/SAT・ソースボタンを押します。
4. **1**.で調べた5桁のメーカーコード番号をリモコンの**数字ボタン**を使って入力します。入力し終わると、**TV・ソースボタン**(他の機器の場合はそれぞれのソースボタン)が素早く2回点滅して消灯します。
5. リモコンをテレビのリモコン信号受光部に向けて、TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源がOn/Offできるか、**TV・Videoボタン**を押してテレビの入力が切り替えできるか、**Channelボタン**や**数字ボタン**を押してテレビのチャンネルが切り替えられるか確認してください。このとき、これらの操作ができない場合は同じメーカーの次のコード番号を選んで、手順「2」からやり直してください。
   ※チャンネルの数字が2桁以上の場合は、数字ボタンで入力できないことがあります。

♪**注意：** **設定を行っている間にリモコンの設定に関係ないボタンを押すか、無効のコード番号を入力すると、5個のソースボタンが素早く3回点滅して、入力モードが終了します。このときは、手順「2」からやり直してください。**

♪**：** **現在リモコンでどの機器が操作できるか確認するには、リモコンのEnterボタンまたはMuteボタンを押します。操作できる機器のソースボタンが点滅します。**

複合機器の場合

1台で2つ以上の機能（TVとVCR、TVとDVDなど）を持った機器の場合、初めに巻末のコード表の製品カテゴリーの「複合機器」から、メーカー別のコード番号を探してください。いずれか1つのソースボタンにコード番号を設定しておけば機能ごとにソースボタンで切り替えなくても操作できるようになります。例えば、TVとVCRの複合機器の場合は**TV・ソースボタン**か、**VCR・ソースボタン**のどちらか1つに設定するだけでTVとVCR両方の操作ができるようになります。

「複合機器」のカテゴリーに適切なコード番号がない場合は、別々のカテゴリー（TV、CBL、SAT、DVD、VCR、DVRなど）からコード番号を探して、それぞれの機能ごとに別々のソースボタンを使用して操作できるように設定してください。例えば、TVとVCRの複合機器の場合は、**TV・ソースボタン**でテレビを操作できるように設定して、**VCR・ソースボタン**でVCRの操作ができるように設定します。

リモコンの使い方（付属のリモコンで外部機器の操作）

♪**注意：リモコンの送信部を操作したい外部の機器のリモコン信号受光部へ確実に向けて操作してください。また、リモコンの送信部と操作したい外部の機器のリモコン信号受光部の間に障害物がないことを確認してください。**

テレビを見るとき

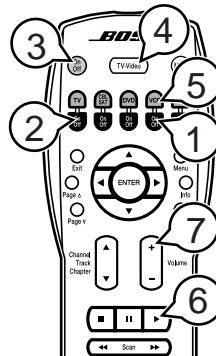
1. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
2. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
3. **TV・ソースボタン**を押してテレビの操作をできるようにします。
4. テレビのチャンネルを切り替えて、見たい番組に合わせます(20ページ参照)。
5. 音量を調整します。

DVD/DVRを見るとき

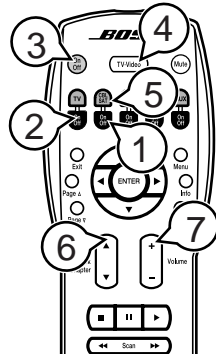
●DVD/DVRの光デジタル音声出力端子とインターフェースモジュールのOPTICAL IN DVD端子を光デジタルケーブルで接続してあることを確認します。

1. DVD・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してDVD/DVRの電源を入れます。
2. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
3. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
4. **TV・Videoボタン**を押して、テレビの入力をDVD/DVRを接続した入力に切り替えます。
5. **DVD・ソースボタン**を押して、DVD/DVRの操作をできるようにします。
6. DVD/DVRを操作して見たい番組を再生します(20ページ参照)。
7. 音量を調整します。

リモコンの設定時に、DVD・ソースボタンにDVD/DVRを設定してください。

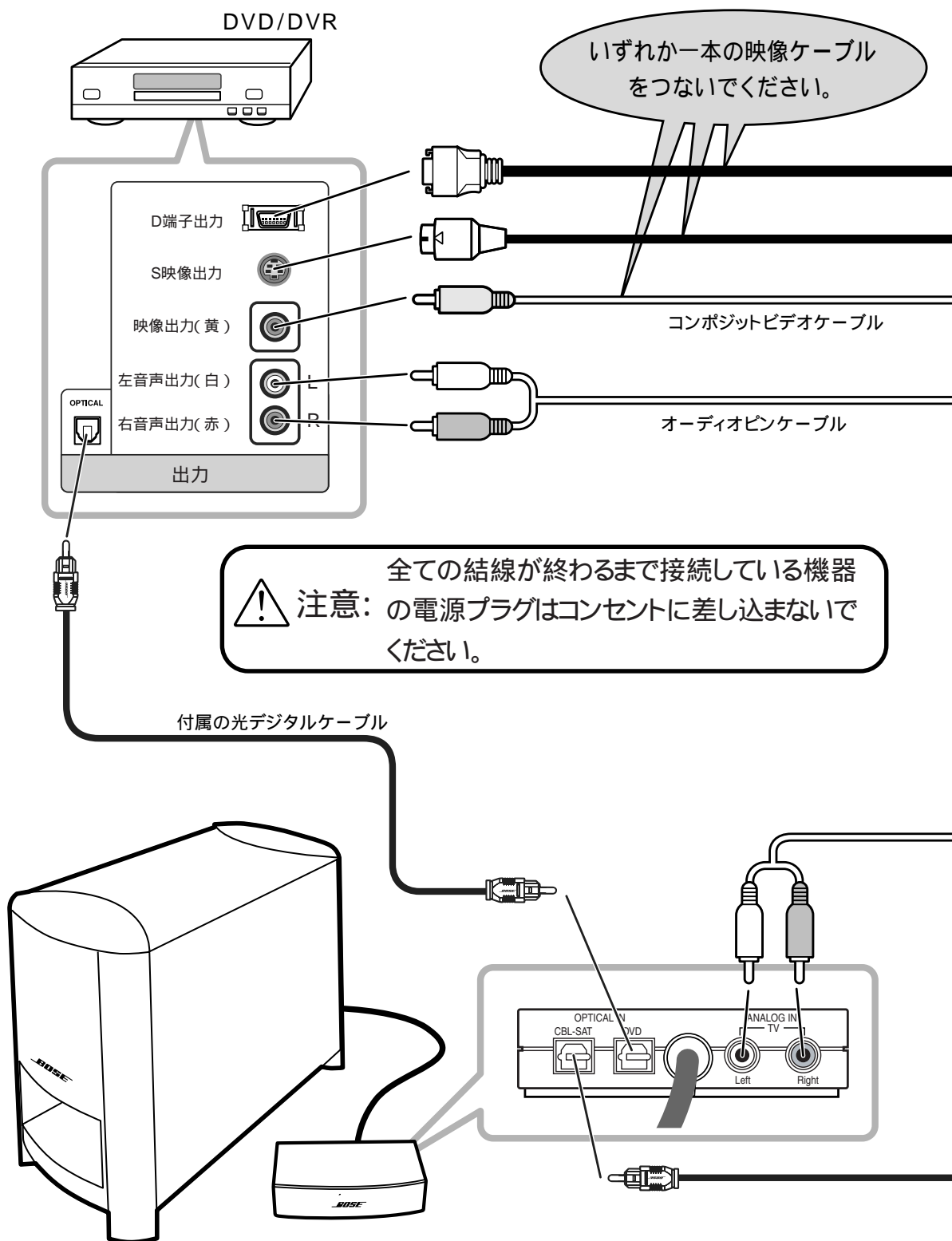
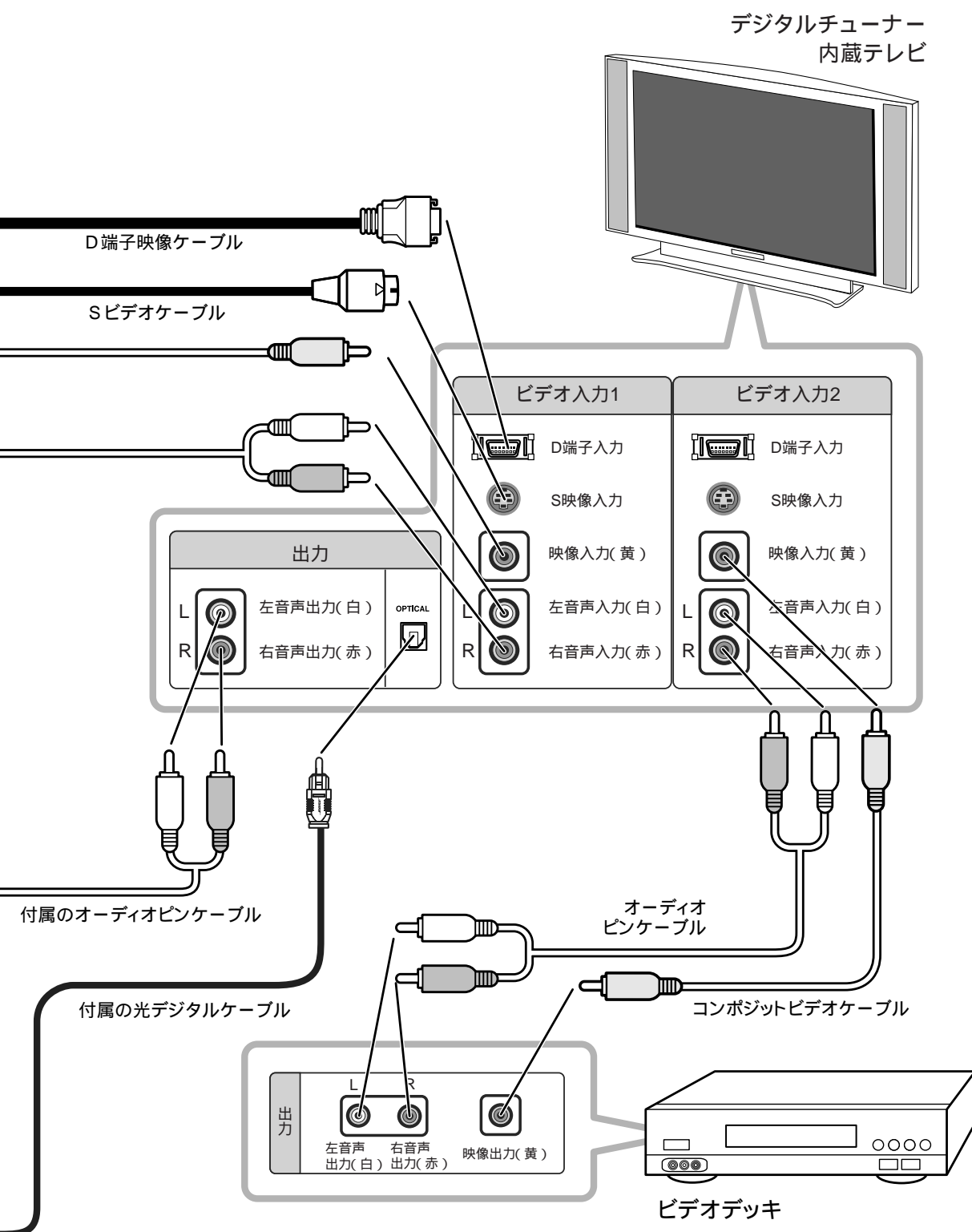
VCRを見るとき

1. VCR・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してビデオデッキの電源を入れます。
2. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
3. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
4. **TV・Videoボタン**を押して、テレビの入力をビデオデッキを接続した入力に切り替えます。
5. **VCR・ソースボタン**を押して、ビデオデッキの操作をできるようにします。
6. ビデオデッキを操作して見たい番組を再生します(20ページ参照)。
7. 音量を調整します。

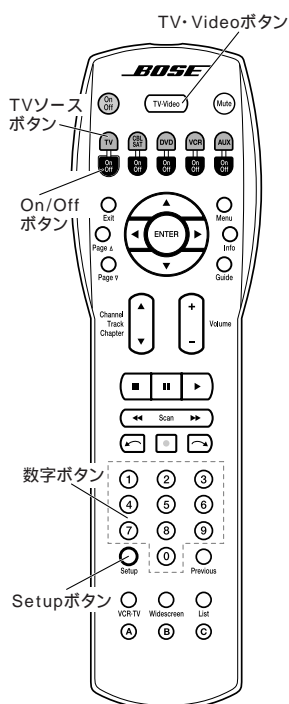
リモコンの設定時に、VCR・ソースボタンにビデオデッキを設定してください。

デジタルチューナーの番組を見るとき

●デジタルチューナーの光デジタル音声出力端子とインターフェースモジュールのOPTICAL IN CBL-SAT端子を光デジタルケーブルで接続してあることを確認します。

1. CBL/SAT・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してデジタルチューナーの電源を入れます。
2. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
3. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
4. **TV・Videoボタン**を押して、テレビの入力をデジタルチューナーを接続した入力に切り替えます。
5. **CBL/SAT・ソースボタン**を押して、デジタルチューナーの操作をできるようにします。
6. デジタルチューナーを操作して見たい番組を再生します(20ページ参照)。
7. 音量を調整します。

リモコンの設定時に、CBL/SAT・ソースボタンにデジタルチューナーを設定してください。

テレビとの接続例 3 （応用編：デジタルチューナー内蔵テレビ、DVD/DVR、ビデオデッキ）

・接続するときのケーブルは必要に応じて市販のものをご用意ください。
・図のテレビ、DVD/DVR、ビデオデッキの端子の部分はあくまでも一例です。
　お手持ちの機器により異なる場合があります。

外部の機器（接続例 3 ）を付属のリモコンで操作するには

FS-321 II システム付属のリモコンに巻末のメーカーコード番号を設定することで、外部の機器を操作することができます。

例：テレビを操作できるように設定する場合

1. 巻末の設定コード表の製品カテゴリーの「TV」からテレビのメーカーコード番号を探します。同じメーカーのコード番号が複数ある場合は初めのものから順番に試していきます。
   ※他の機器の設定をする場合は、設定する機器それぞれのカテゴリーからメーカーコード番号を探してください。
2. 5個のソースボタンが点灯するまで、**Setupボタン**を長押しします。
3. **TV・ソースボタン**を押します。TV・ソースボタン以外のソースボタンが消灯します。
   ※DVD/DVRの場合は、DVD・ソースボタン、VCRの場合は、VCR・ソースボタンを押します。
4. **1**.で調べた5桁のメーカーコード番号をリモコンの**数字ボタン**を使って入力します。入力し終わると、**TV・ソースボタン**(他の機器の場合はそれぞれのソースボタン)が素早く2回点滅して消灯します。
5. リモコンをテレビのリモコン信号受光部に向けて、TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源がOn/Offできるか、**TV・Videoボタン**を押してテレビの入力が切り替えできるか、**Channelボタン**や**数字ボタン**を押してテレビのチャンネルが切り替えられるか確認してください。このとき、これらの操作ができない場合は同じメーカーの次のコード番号を選んで、手順「2」からやり直してください。

   ※チャンネルの数字が2桁以上の場合は、数字ボタンで入力できないことがあります。

♪ **注意： 設定を行っている間にリモコンの設定に関係ないボタンを押すか、無効のコード番号を入力すると、5個のソースボタンが素早く3回点滅して、入力モードが終了します。このときは、手順「2」からやり直してください。**

♪ **： 現在リモコンでどの機器が操作できるか確認するには、リモコンのEnterボタンまたはMuteボタンを押します。操作できる機器のソースボタンが点滅します。**

複合機器の場合

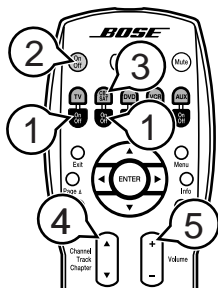
1台で2つ以上の機能（TVとVCR、TVとDVDなど）を持った機器の場合、初めに巻末のコード表の製品カテゴリーの「複合機器」から、メーカー別のコード番号を探してください。いずれか1つのソースボタンにコード番号を設定しておけば機能ごとにソースボタンで切り替えなくても操作できるようになります。例えば、TVとVCRの複合機器の場合は**TV・ソースボタン**か、**VCR・ソースボタン**のどちらか1つに設定するだけでTVとVCR両方の操作ができるようになります。

「複合機器」のカテゴリーに適切なコード番号がない場合は、別々のカテゴリー（TV、CBL、SAT、DVD、VCR、DVRなど）からコード番号を探して、それぞれの機能ごとに別々のソースボタンを使用して操作できるように設定してください。例えば、TVとVCRの複合機器の場合は、**TV・ソースボタン**でテレビを操作できるように設定して、**VCR・ソースボタン**でVCRの操作ができるように設定します。

リモコンの使い方（付属のリモコンで外部機器の操作）

♪ **注意： リモコンの送信部を操作したい外部の機器のリモコン信号受光部へ確実に向けて操作してください。また、リモコンの送信部と操作したい外部の機器のリモコン信号受光部の間に障害物がないことを確認してください。**

テレビを見るとき

●**テレビの光デジタル音声出力端子とインターフェースモジュールのOPTICAL IN CBL-SAT端子を光デジタルケーブルで接続してあることを確認します。**

1. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**または、CBL/SAT・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
2. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
3. **CBL/SAT・ソースボタン**を押してテレビの操作をできるようにします※。
4. テレビのチャンネルを切り替えて、見たい番組に合わせます(20ページ参照)。
5. 音量を調整します。

リモコンの設定時に、TV・ソースボタンと、CBL/SAT・ソースボタンの両方にテレビを設定してください。

※デジタル音声を再生する場合は必ずCBL/SAT・ソースボタンを押してください。

DVD/DVRを見るとき

●**DVD/DVRの光デジタル音声出力端子とインターフェースモジュールのOPTICAL IN DVD端子を光デジタルケーブルで接続してあることを確認します。**

1. DVD・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してDVD/DVRの電源を入れます。
2. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**または、CBL/SAT・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
3. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
4. **TV・Videoボタン**を押して、テレビの入力をDVD/DVRを接続した入力に切り替えます。
5. **DVD・ソースボタン**を押して、DVD/DVRの操作をできるようにします。
6. DVD/DVRを操作して見たい番組を再生します(20ページ参照)。
7. 音量を調整します。

VCRを見るとき

1. VCR・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してビデオデッキの電源を入れます。
2. TV・ソースボタン下の**On/Offボタン**または、CBL/SAT・ソースボタン下の**On/Offボタン**を押してテレビの電源を入れます。
3. **On/Offボタン**を押してFS-321Ⅱシステムの電源を入れます。
4. **TV・Videoボタン**を押して、テレビの入力をビデオデッキを接続した入力に切り替えます。
5. **VCR・ソースボタン**を押して、ビデオデッキの操作をできるようにします。
6. ビデオデッキを操作して見たい番組を再生します(20ページ参照)。
7. 音量を調整します。

リモコンの設定時に、VCR・ソースボタンにビデオデッキを設定してください。

FS-321II システムのお手入れについて

・汚れやほこりは柔らかい布でから拭きしてください。
・汚れがひどい時は、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。
・シンナー、ベンジン、アルコール類などの揮発性の薬品やその他化学物質、クレンザーなどで製品をふかないでください。破損、変質、変色、塗料のはがれや表面に傷を付ける原因となります。またスプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。
・どの開口部からも液体が入らない様にご注意ください。
・スピーカーのグリルの部分を掃除するときは、掃除機を使って傷つけないように弱い吸引力で注意深く吸い取ってください。

故障かな？と思ったら

問　　題	対　　　応
LED が点灯しない、電源が入らない	• アクースティマスモジュールにACケーブルが確実に差し込まれており、ACプラグが確実にコンセントに差し込まれていることをチェックする。 • インターフェースモジュールがアクースティマスモジュール背面にしっかりと接続されていることを確認する。 • リモコンの左上隅にある**On/Offボタン**を確実に押す。 • ACプラグをコンセントから抜いて、約1分以上放置して、もう一度コンセントに差し込み、インターフェースモジュール前面の赤色のLED（スタンバイインジケーター）が点灯しているのを確認する。次に、リモコンの左上隅にある**On/Offボタン**を押して緑色のLEDが点灯してシステムの電源がOnしていることを確認する。
音声が出ない	• インターフェースモジュール前面の緑色のLEDが点灯してシステムの電源がOnしていることを確認する。 • リモコンの**ソースボタン**でお聞きになりたい**ソースのボタン**を確実に押す。 • ボリュームを上げてみる。 • ミュートがかかっている場合は、リモコンの**Muteボタン**を押しミュートを解除する。 • インターフェースモジュールとスピーカーコードが、アクースティマスモジュール背面にしっかりと接続されていることを確認する。 • スピーカーコードの接続をチェックする。 • ACプラグをコンセントから抜いて、約1分以上放置して、もう一度コンセントに差し込み、リモコンの左上隅にある**On/Offボ**タンを押して、次に、ソースボタンでお聞きになりたいソースのボタンを押してみる。 • テレビの外部入力に接続されている機器を正しく選ばれているか確認する（18ページの「ソースと入力の選択」**TV・Videoボタン**を参照）。 • インターフェースモジュールとテレビ、インターフェースモジュールと外部機器、テレビと外部の機器の接続を確認する。 • テレビの音声出力端子から音声信号が出力される設定になっていることを確認する（設定については、テレビの取扱説明書を参照）。 • テレビの音声出力が可変の場合は、固定に設定を替えるか、テレビの内蔵スピーカーから音が出ないように設定して、テレビのボリュームを上げる。 • デジタル入力端子にゲーム機/DVDプレーヤーからの信号を接続して使用している場合、それらの機器の設定で、デジタル出力信号の内容がDTS以外であることを確認※する（5ページ参照)。 **※外部機器それぞれの取扱説明書を参照。**
音声は聞こえるが、映像が映らない	• テレビの電源が入っていることを確認する。 • テレビの外部入力に接続されている機器を正しく選ばれているか確認する(18ページの「ソースと入力の選択」**TV・Videoボタン**を参照)。 • 映像信号を出力する機器からの映像信号が正しくテレビに接続されていることを確認する。 • DVDプレーヤーからの映像の場合には、テレビとDVDプレーヤーの間に他の機器が接続されていないこと※を確認する。 **※途中に別の機器(ビデオデッキなど)をつなぐと映像が正しく出ない場合がある。** • 映像ケーブルを交換してみる。

リモコンがきかない	• 電池の入れ方を間違えていないか確認する。 • リモコンの送信部をインターフェースモジュール、または、操作したい外部の機器のリモコン信号受光部へ確実に向ける。 • リモコンとインターフェースモジュール、または、操作したい外部の機器のリモコン信号受光部の間に障害物がないことを確認する。 • **ソースボタン**を押したときにボタンが点滅することを確認する。 • リモコンのボタンを押したときにインターフェースモジュールの緑色のLEDが点滅することを確認する。 • お使いの機器のメーカーコード番号で、より適切なものがある場合があるので別のコード番号をセットしてみる。
音が歪んでいる	• スピーカーコードに損傷したところが無いかチェックする。 • 外部機器からの出力が大き過ぎないかチェックする。
テレビから音が出る	• テレビの内蔵スピーカーから音が出ないように設定する。テレビには、テレビの各種設定を行う画面から内蔵スピーカーの使用、不使用を選ぶものと、テレビの背面に内蔵スピーカーOn/Offスイッチがあるもの、内蔵スピーカーをOffにできないものの3種類があるので、お使いのテレビの取扱説明書を参照して設定する。テレビの内蔵スピーカーをOffにできない機種の場合は、テレビのボリュームを最小にする。

故障の場合のお問い合わせ先

故障及び修理のお問い合わせは、
ボーズ・サービスセンター株式会社　　0120-235-250
住所　〒206-0035　東京都多摩市唐木田1-53-9　唐木田センタービル

製品等のお問い合わせは、
ユーザーサポートサポートセンター　　0120-130-168
までご連絡ください。

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

設定コード表

TV
(テレビ)

メーカー	コード
アイワ	10701
富士通	10853, 10683, 10809, 10179, 10072, 10095, 10186, 10206
フナイ	10171, 10180, 10294, 10179, 10264, 10303, 10342, 11271
日立	10145, 10163, 10225, 10043, 11037, 10151, 10227, 10109, 10719, 10044, 10797, 10038, 10481, 10563, 10032, 10409, 11045, 10744, 10095, 10217, 10036, 10198, 10196, 10413, 11225, 11481, 10056, 10730, 10097, 10279, 10441, 10105, 10039, 10030, 10027, 10019, 11145, 11150, 11156, 11170, 10016, 11245, 11256, 11378, 10009, 10578, 10092, 10548, 10508, 10474, 10156, 10381, 10157, 10165, 10173, 10178, 10179, 10186, 10182
ビクター/JVC	10053, 11253, 10069, 10169, 10036, 10731, 10160, 10463, 10683, 10182, 10190, 10371, 10508, 10606, 10653 10250, 10376, 10650
LG電子	11637, 10714, 10178, 11265, 10056, 10001, 11378, 11178, 10856, 10003, 10700, 10644, 10474, 10442, 10409, 10004, 10108, 10060, 10038, 10037, 10032, 10030, 10019
三菱	10150, 10036, 11250, 10512, 10108, 10019, 10178, 11150, 10535, 10358, 10155, 10098, 10093, 10836, 10868, 10014, 10817, 10474, 10381, 10331, 10250, 10236, 10180, 10179, 10154, 10087, 10056, 10033, 10030, 10007, 11182

TV
（テレビ）

NEC
10170, 10030, 10497, 11704, 11170, 10019, 10036, 10056, 10882, 10704, 10455, 10474, 10508, 10817, 11150, 11378, 11456, 10434, 10412, 10381, 10264, 10186, 10178, 10165, 10156, 10154, 10053, 10051, 10046, 10009

パナソニック/ナショナル
10250, 10226, 10051, 10650, 10055, 10161, 10338, 11650, 11410, 10863, 10508, 10375, 10367, 10227, 10208, 10163, 10162, 10100, 10054, 10037

フィリップス
10037, 10012, 10556, 10054, 10193, 11454, 11455, 10690, 10007, 10747, 10774, 11154, 10554, 10474, 10409, 10374, 10278, 10187, 10186, 10178, 10108, 10092, 10087, 10056, 10051, 10043, 10032, 10030, 10028, 10024, 10020, 10019, 10000

パイオニア
10166, 10679, 10866, 10109, 10760, 10172, 10038, 10163, 11260

サムスン
10060, 11060, 10812, 10037, 10019, 10178, 10329, 10217, 10814, 10766, 10290, 10264, 10702, 10370, 10644, 10618, 10056, 10032, 10030, 10587, 10556, 10682, 10747, 10774, 10817, 10821, 11150, 10474, 10427, 10409, 10408, 10278, 10226, 10208, 10179, 10156, 10154, 10110, 10092, 10090, 10039, 10009

三洋
10799, 10154, 10036, 10208, 10157, 10011, 10893, 10146, 10232, 10104, 10045, 10072, 11179, 11154, 11150, 11142, 10068, 10798, 10508, 10484, 10474, 10424, 10412, 10381, 10376, 10339, 10280, 10264, 10227, 10088, 10180, 10159, 10156, 10107, 10145

シャープ
10093, 10818, 10165, 10491, 10036, 10153, 10851, 11193, 10039, 10157, 10256, 10386, 10689, 10688, 11165, 10787, 10720, 10650, 10474, 10409, 10398, 10281, 10220, 10032, 10030, 10009

TV
（テレビ）

ソニー

10000, 10011, 10353,
10036, 10111, 10834,
11651, 11100, 11505,
10080, 10273, 10810,
10867, 10650, 11010,
11300

東芝

10035, 10156, 11656,
11156, 11256, 10508,
10036, 10509, 10070,
10149, 10832, 10845,
10060, 11704, 11265,
11164, 11356, 10650,
11456, 11508, 11150,
10821, 10718, 10644,
10618, 10412, 10381,
10264, 10227, 10161,
10154, 10145, 10093,
10009

CBL
（ケーブルテレビホームターミナル）

メーカー	コード
日立	00011, 00014, 00033
パナソニック	00021, 00107, 00000, 00008, 00040, 00375
パイオニア	00144, 00533, 01021, 00023, 01877, 00877
サイエンティフィック・アトランタ（SA）	00008, 00017, 00277, 01877, 00477, 00877, 00006
ソニー	01006
東芝	00000

SAT
（デジタルチューナー、衛星チューナーなど）

メーカー	コード
DX アンテナ	00041, 01530
日立	00819, 00455, 00214, 00489, 00491, 01250
Humax	01176, 01427, 00863
ビクター/JVC	01170, 00515, 00492, 00571, 00775, 01532 01775
マスプロ	00750, 00041, 01530
三菱	00749, 00491
NEC	00496, 01270
パナソニック	00847, 00247, 01304, 00214, 00701, 00152, 01320, 00340, 00500, 01527, 01528
パイオニア	00329, 00352, 01308, 00853
三洋	00493, 01219
シャープ	00494
ソニー	01639, 00639, 01640, 00275, 00282, 00163, 00294, 00847, 01524
東芝	00082, 00749, 00790, 01285, 01446, 01749, 00061, 00486, 01501, 01530
ユニデン	00238, 00724, 00052, 00074, 00370, 00554, 00076, 00296, 00722

DVD/DVR (DVDプレーヤー、HDD/DVDレコーダーなど)		
	アイワ	20641
	デノン	21634, 20634, 20490
	フナイ	20675, 21334
	日立	20664, 21664, 20573, 20695, 21247
	ビクター/JVC	20623, 20867, 21241, 21275, 20558, 21164
	三菱	21521, 20521, 21403
	オンキョー	20627, 20612, 20503, 20792, 21417, 21418, 21612
	パナソニック	20490, 21010, 21011, 21490, 21462, 21762, 20632, 21362, 20616, 21244
	パイオニア	20571, 20631, 20525, 20638, 21816, 20632, 21571
	サムスン	20573, 21075, 20490, 20744, 20820, 20899, 21044, 21118
	シャープ	20630, 21256, 20752
	ソニー	20533, 21033, 21633, 21133, 21069, 21070, 20864, 21431, 21533, 20772, 21017, 21389, 20636, 21972
	東芝	20503, 21045, 21154, 20695, 21008, 20828, 21972
	ヤマハ	20490, 20545, 20539, 20817

VCR
(ビデオデッキ)

ブランド	コード
アイワ	20307, 20000, 20742, 20406, 20468, 20348, 20687, 20037, 20734, 21468, 20124, 20352, 20479, 20680, 21137, 21291
富士通	20000, 20045, 20052, 20366
フナイ	20000, 20593
日立	20042, 20166, 20041, 20544, 20000, 20240, 20037, 20089, 21037
ビクター/JVC	20067, 20041, 20384, 20486, 20045, 20366
三菱	20043, 20173, 20061, 20041, 20067, 20081, 20807
NEC	20038, 20041, 20067, 20104, 20035, 20037, 20048, 20370
パナソニック/ナショナル	20226, 20035, 20162, 21562, 20227, 21162, 21062, 20836, 20513, 20616, 21244, 21662, 20225, 20367, 21035
フィリップス	20081, 20035, 20739, 20618, 20062, 20593, 21340, 20000, 20226, 20384, 21381
パイオニア	20058, 20081, 21337, 20042, 20067
三洋	20046, 20104, 20047, 20159, 20240, 20368, 20369
シャープ	20048, 20062, 20569, 20807, 20209, 20363
ソニー	20034, 20033, 20032, 20636, 20586, 21032, 21232, 21972, 20000, 20035, 20639, 20640
東芝	20045, 20041, 20384, 21008, 20366, 20845, 21503, 20042, 20043, 20067, 20081, 20544, 20828, 21145, 21972

複合機器
(TV/VCR)
ビデオ付テレビ

メーカー	コード
アイワ	20742, 20687, 21468, 20000, 20468, 20479, 20680
フナイ	20000
日立	20000
三菱	20043, 20807
パナソニック	21662, 20162, 21035, 21162
三洋	20240
シャープ	20807
ソニー	20000, 21232
東芝	20845, 21145

複合機器
(TV/DVD)
DVD付テレビ

メーカー	コード
日立	21247
パナソニック	21490
東芝	20695

複合機器
(TV/VCR/DVD)
ビデオ/DVD付テレビ

メーカー	コード
フナイ	21334
パナソニック	21462, 21362
シャープ	20630, 20807
東芝	21045

複合機器
(VCR/DVD)
ビデオデッキ一体型DVDプレーヤー

メーカー	コード
フナイ	20675
日立	20000, 20664
パナソニック	20490, 21562, 21762
三洋	20104, 20873
シャープ	20630
ソニー	20864, 21431
東芝	20503

仕様

■スピーカー部

●スピーカーアレイ（防磁型）

外　形　寸　法　200（W）× 88（H）× 136（D）mm
質　　　　　量　1.2kg（1本）

●アクースティマスモジュール（非防磁型）

外　形　寸　法　221（W）× 360（H）× 488（D）mm
質　　　　　量　11.6kg

電　源　電　圧　AC100V（50/60Hz）

●インターフェースモジュール（赤外線受光部）

音　声　入　力　アナログ入力×1（TV）
光デジタル入力×2（DVD、CBL-SAT）
外　形　寸　法　89（W）× 25（H）× 68（D）mm
ケーブル長 4.5m

●付属品

リモートコントローラー×1、
乾電池　単3×2、
専用スピーカーコード（4.4m）×1セット、
光デジタルケーブル（1.9m）×2本
オーディオピンケーブル（1.7m）×1本、
スピーカーアレイ用ゴム足×8、
アクースティマスモジュール用ゴム足×4、
ACケーブル（2.4m）×1本

※仕様規格、外観および価格は、予告なく変更することがあります。

ボーズ株式会社　http://www.bose.co.jp/
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷YTビル　　0120-130-168

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1328
08・12-0.5K-F・1(I-M)